

令和2年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	宇都宮大学	タイプ	A①
事 業 名	アフリカの潜在力と日本の科学技術融合による SDGs 貢献人材育成プログラム		
海外の相手大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学、アジスアベバ大学、メル科学技術大学、ダルエスサラーム大学、ネルソンマンデラアフリカ科学技術機構、ガーナ大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、貴学が地域社会で培った産学連携による農業の国際化に向けて、これまでの経験と実績に加え、アフリカ諸国の現状分析を行い、高生産性農業に関するプログラムと地域社会の持続的発展を目指すプログラムからなる具体的な計画となっている。食料生産から流通・加工・販売まで含めた高生産性農業を構築できる人材育成及び地域社会の持続的発展を目指した意欲的な取組として高く評価できる。その展開にあたって、大学院改組に伴う文理融合の教育研究環境を活かした体制で実施する計画となっており、4カ国6大学との連携スキーム及び個々の海外相手大学のキーマンが明確となっており、実現性が十分に期待できる。また、学生の支援体制についてもアフリカ諸国の大学との間で締結した学術交流協定の下で派遣・受入実績があり、これまでの経験から日本人学生とアフリカ諸国の学生が共同して調査し、課題発見及び解決のためのアイデアを提案することで、目的とする日本とアフリカ諸国の共同事業に貢献し、マネジメントが可能な人材の育成が期待できる。短期・長期留学のうち、一定程度の学生が3ヶ月以上の渡航計画とされ、学位取得を念頭に、ダブル・ディグリー制度まで繋げる計画も意欲的である。さらに、今般のコロナ禍に対応すべく、自国にてオンラインで受講する学生もコンスタントに見込んでいたり、補助期間終了後の展開も視野に入れるなど事業の継続も期待できる。

一方で、交流の内容が主に農作物のブランド化等に関する意見交換に限定されている印象があり、例えばアフリカ諸国における農業生産・所得・食料安全保障のような、より高次の諸問題に包括的なアプローチが可能となるプログラムにするなど、更なる工夫が望まれる。また、日本人学生に修得させる外国語力基準が明確になっていないこと、貴学と海外相手大学との協議・連携による成績管理や単位互換については、十分な質の保証と評価体制の確立が求められる。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国・地域との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。